

東京佛光人が高雄 731 爆発事故のために回向、祈願をする

八月三日、東京佛光山寺は共修法要を行いました。午前、覚用法師は僧侶と信者を指導し、台湾高雄 731 爆発事故のために『八十八佛大懺悔文』を唱えました。そして、開山星雲大師が高雄 731 爆発事故のために書いた祈願文を読み上げました。お経と祈願文を通して、生きている方々が仏陀の光に照らされ、心身共に健康で幸せであるように、また、亡くなった方々が阿弥陀仏の接引によって極楽世界へ行けるように祈願しました。

参加した華人以外の日本人信者も縵衣（在家者用法会）を付け、手書きの振り仮名付祈願文を手に、共に回向、祈願をしました。約百人の信者が参加しました。国籍が異なっても参加できることは、人間性の輝きと慈悲心の発揮であることを参加者は表していました。

東京協会の邱美艶会長も幹部と共に回向、祈願に参加しました。「無縁大慈、同体大悲」（誰もが自分と同じだとして慈悲の心を持つ）、「人飢己飢、人溺己溺」（人の苦しみを我が苦しみとする）の精神を発揮し、生きている方にも亡くなった方にも功德の力が得られるよう祈願しました。

